



学習で、春闘を生き返らそう

今年は、連合ができて30年になります。今や、かつての労働運動も春闘も消えそうな状況です。新自由主義と闘わない連合のもとで、日本の労働者は貧困と格差拡大によってその悲惨さを深めています。また、戦争への道への扉は、こじ開けられ、日本の軍隊（自衛隊）が戦場へ派兵されるのもう目の前に迫っています。このような今日の事態に対して、いま何からはじめるのか。

「総評春闘」を、高揚させた原動力となったのは、三池闘争に学んだ、当時の青年労働者たちが中心になっての、職場や地域での「マルクス経済学」等の学習会です。学習と職場闘争で鍛えられ、総評労働運動は質的に強化され、「総評春闘」は、高揚し、客観情勢にも助けられ、

大幅賃上げを実現させました。資本は危機感を抱き、総評潰しを進め、労資協調路線の連合が誕生したのです。

したがって、今からできることは、総評時代の数倍の努力を持って、職場に地域に学習会をつくり、学習と職場闘争で、総評敗北の原因である日本の労働者の「階級および階級闘争」の認識の弱さの克服です。四国でもO Bの人が元の職場で10人位の仲間と『資本論』の学習をはじめています。同時に、改良闘争の実践の積み上げが重要です。そこから、労働者階級としての自覚が強まり、不屈の労働者思想が確立し、職場に闘う労働運動が再生し、春闘も生き返っていくのではないのでしょうか。

労働大学企画編集委員 柳本 勝彦